

# ネイパル・アース キッズ～森～

## ■ 事業のねらい

水辺や森林における自然観察や調査活動等とおして、身近な環境問題に関する興味・関心を高めるとともに、環境保全に配慮した生活の大切さについて理解を深める。



- 実施日 平成 24 年 10 月 20 日（土）～21 日（日）1泊2日
- 参加対象 小学4年生～中学3年生 40名
- 参加実績 参加者：27名  
小4＝15名、小5＝11名、中1＝1名  
男子＝14名、女子＝13名
- 備考 協力：根釧西部森林管理署真竜森林事務所  
厚岸町環境教育推進委員会エコランド2012  
活動場所：厚岸少年自然の家、パイロットフォレスト

## 1 事業実施の背景



北海道環境教育基本方針では、北海道は現在、廃棄物や生活排水の問題等といった身近な問題から、地球温暖化、オゾン層の破壊、森林の減少等の地球規模に及ぶ問題など、環境問題が深刻さを増していると指摘している。

厚岸町では、環境教育推進のため、平成8年に厚岸町環境教育推進委員会が設置され、地域の特性を生かした環境教育を推進しており、平成20年には、小学生を対象に環境教育をテーマとした事業「エコランド」を開催しているが、その後、継続されずに現在に至っている。

そこで、本事業は、厚岸町環境教育推進委員会の協力を得て、道東の優れた自然環境に目を向けさせ、環境に対する関心を高め、問題解決能力を育成するとともに、知識を習得するだけでなく、日常生活の中での様々な環境問題に取り組むことができる実践力を身に付けることを目指し、実施するものである。

プログラムの展開にあたっては、アマモ場が広がる厚岸筑紫恋海岸とカキを養殖する厚岸湖、別寒辺牛川流域の湿原（ラムサール条約登録地）、約1万ヘクタールの国有林パイロットフォレスト等、厚岸の豊かな自然環境をフィールドに、海、湿原・川、森の3回シリーズで、水辺から環境について考えていくこととした。

第3回目の今回は森をテーマに展開する。

## 2 プログラムデザイン

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
10/20 (土)	受付 10:00～10:30				受付	開 会 式	オリ エン テー ション	弁 当	バス 移動	海と森は つながっている? ○森の探検 ○森を守る仕事体験 協力：真竜標茶森林事務所 講師：長谷川学氏	バス 移動	休 憩	夕食づくり・夕食 キノコのピザと りんごの ジャムのアイス	入浴 自由		就 寝	
10/21 (日)	起 床	清 掃	朝食 点検	活動のまとめ と交流	閉 会 式	解散 11:30											

## ■ アクティビティについて



### ■ 意図

- パイロットフォレストへ実際に行き、展望台から森を眺めたり、間伐作業を体験することを通して、人の手で森をつくった先人の苦勞を感じ取り、森を守るために必要な情報をつかませる。
- パイロットフォレストには、人の手によって植林された木が育ち、多くの動物が息していることから、この森の環境を守っていくために、自分たちにできることを考える機会とする。

### ■ 留意事項

- 間伐作業での木の倒れる方向を見極めるなど、森の中での活動の際には、参加者全員が安全に活動を行えるよう、一人ひとりの様子に目を配り、きめ細かな個に応じた支援を心がける。

### 3 活動の様子



#### ■ 活動の様子

1日目は、開会式の後、バスでパイロットフォレストに移動し、管理棟でパイロットフォレストの成り立ちについてビデオを視聴した後、真竜森林事務所の長谷川学森林官から、パイロットフォレストが作られる前後の様子についての説明を受けた。木がなかった頃は土砂が川へ流れ込み、別寒辺牛川の流域や厚岸湖は濁っていたが、木を植えることで水がきれいになり、貴重な生物の棲む自然環境となっていくことを学んだ。次に、パイロットフォレスト内の展望台へ移動し、人の手によって植林されたカラマツの広大な森を俯瞰した。最後は、森の中に入って間伐作業を行うなど、実際に森を守り、育てる仕事を体験した。

ネパールに戻ってからは、森の恵みを味わおうと、キノコのピザとリンゴのジャムづくりを行った。子どもたちは、自分たちでつくった料理を囲み、秋の味覚を楽しんだ。

2日目は、これまでの活動のまとめを行った。一人ひとり1枚の紙に学習したことをまとめていき、印刷・製本した後、できあがった冊子をもとに活動を振り返り、全日程を終えた。

#### ■ 参加者の声

- 人の手で森をつくるのは、とてもすごいことだと思った。
- 森がないと雨と一緒に土も流れてしまうけど、森があると水を抑えることができることを知った。
- 森や湿原、海や川などの環境をよくすることで、まわりの環境もよくなることがわかった。
- 森を守ると 川に生き物がたくさんきて、海でもカキがたくさんとれることを知った。
- 海、川、森はすべてつながっていることがわかった。

### 4 事業評価



#### ■ 参加者の変容【IKR調査結果】

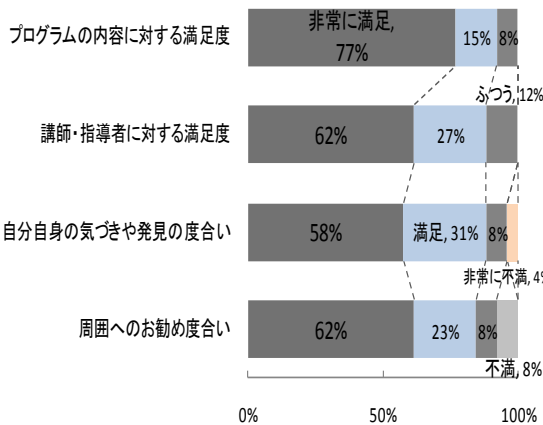
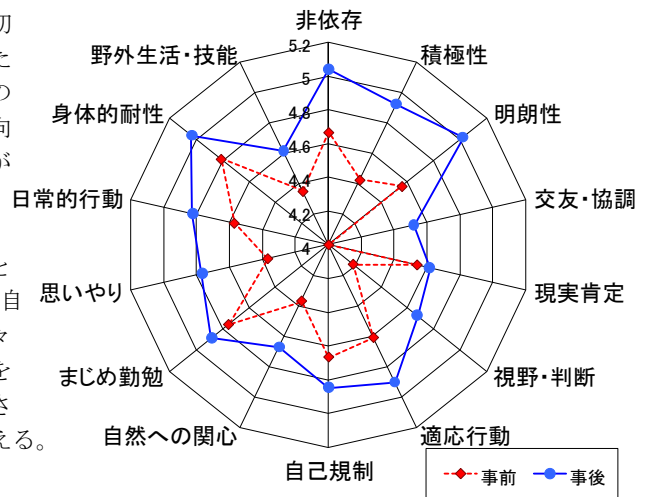
全体としては、8.7ポイントの向上。

変容を示したのは、「交友・協調」の0.52ポイント、続いて「積極性」の0.50ポイントで、次に「思いやり」が0.40ポイント、「自然への関心」は0.30ポイントの向上が見られた。

#### ■ 結果の分析・考察

「交友・協調」や「積極性」の向上については、今回が初めてとなる参加者が多かったこともあり、新しい仲間との関わりが持てたことや、前向きに物事を考えられたことが要因の一つと考える。

「思いやり」については、集団生活の中で、相手のことを考えて行動できたこと、「自然への関心」は森の中で様々な体験ができ、季節の変化を感じたり、風景などの美しさに感動したりしたためと考える。



### 5 まとめ



#### ■ 成果

- 講師である長谷川氏の説明と間伐体験から、パイロットフォレストの成り立ちや、森を守る人の役割など、森の環境について、専門的な質の高い情報を得ることができた。
- 3回目のテーマである、森について五感をとおして体験しようと、食に関する内容を盛り込んで実施したことにより、新たな参加者の興味・関心を高めることができた。

#### ■ 課題・今後の方向性

- 今回は3回シリーズで地元厚岸町の自然環境に関するプログラムを展開したが、今後は、更に広く道東の自然環境に目を向け、例えばマリモが生息する阿寒湖や世界遺産である知床の森をテーマにしたプログラムを検討していきたい。